

東海大学海洋学部博物館年報

Annual Report of the Museum:
School of Marine Science and Technology,
Tokai University

No.52

2024

東海大学海洋学部博物館

東海大学海洋学部博物館年報

Annual Report of the Museum:
School of Marine Science and Technology,
Tokai University

No.52

2024

東海大学海洋学部博物館

目 次

〈業務活動記録〉

1. 行 事.....	1
1) 海洋科学博物館.....	1
2. 広報活動.....	2
1) 新聞掲載.....	2
2) 雑誌等掲載.....	2
3) テレビ放送・ラジオ放送.....	2
4) 新聞・雑誌等執筆.....	3
3. 来館者数.....	4
4. 主な来訪者.....	5

〈教育・研究活動記録〉

5. 教育普及活動.....	6
1) 出版物.....	6
2) 教育・普及行事.....	7
3) 学校連携事業.....	11
4) 講師派遣.....	11
5) 委員の委嘱.....	12
6. 学芸員課程博物館実習指導.....	13
1) 東海大学海洋学部学芸員課程.....	13
7. 展示活動.....	14
1) 展示協力.....	14
2) 飼育水族.....	15
8. 研究活動.....	17
1) 研究業績.....	17
2) 研究指導.....	18
3) ラブカ研究プロジェクト.....	18
9. その他の活動.....	19

業務活動記録

2023年4月1日～2024年3月31日

1. 行 事

1) 海洋科学博物館

下記の通り行事を実施した.

2023年6月

東海大学海洋学部博物館実習 2, A コース (10日・11日・17日・18日・24日・25日)

7月

地域連携「清水港・港湾海洋体験」への協力 (22日)

地域連携「清水港・海洋体験ツアー」への協力 (22日)

8月

第53回サマースクール 小学校5・6年生コース (7日・8日)

東海大学海洋学部博物館実習 2, B コース (4日～9日)

9月

地域連携「川と海を繋ぐ生き物たち～川で遊び海を考える～」への協力 (2日)

10月

海のはくぶつかんシンポジウム「海の生物の営みを垣間見る」(1日)

東海大学海洋学部博物館実習 2, C コース (14日・15日・21日・22日・28日・29日)

12月

ワークショップ「三保だってアカウミガメの産卵地」(3日)

2. 広 報 活 動

1) 新聞掲載

海洋科学博物館の活動が下記の通り紹介された。

年月日	掲載紙, 見出し
2023年	
6月22日	中日新聞, 東海大・海洋科学博物館無料で再開
9月1日	読売新聞, 深海魚解剖 環境を考える
12月3日	静岡新聞, 深海にすむ未知の生物リュウグウノツカイ

2) 雑誌等掲載

海洋科学博物館の活動が下記の通り紹介された。

年 月	書誌名, 発行, 内容
2023年	
5月	エコチル静岡版5月号, アドバコム, 教育・研究に特化した機関へ
6月	Y・T・S Journal No.96 ヤマハ発動機技術会会報, 東海大学博物館アーカイブ
7月	エコチル静岡版7・8月号, アドバコム, 夏休み期間中は無休で開館します
9月	エコチル静岡版9月号, アドバコム, クマノミたちに囲まれて写真を撮ってみよう
11月	エコチル静岡版11月号, アドバコム, きらきら☆ラグーン
2024年	
1月	エコチル静岡版1月号, アドバコム, 休館中でも水槽はきれいに!
3月	エコチル静岡版3月号, アドバコム, 駿河湾にすむ色とりどりの生き物たち

3) テレビ放送・ラジオ放送

海洋科学博物館の活動が下記の通り紹介された。

年月日	放送局, 番組名, 内容
2023年	
7月2日	テレビ静岡, 爆笑問題の深海 WANTED 9, エイの生態紹介
10月6日	BS日テレ, 深層ニュース, ウクライナ柔道チーム招へい事業の紹介

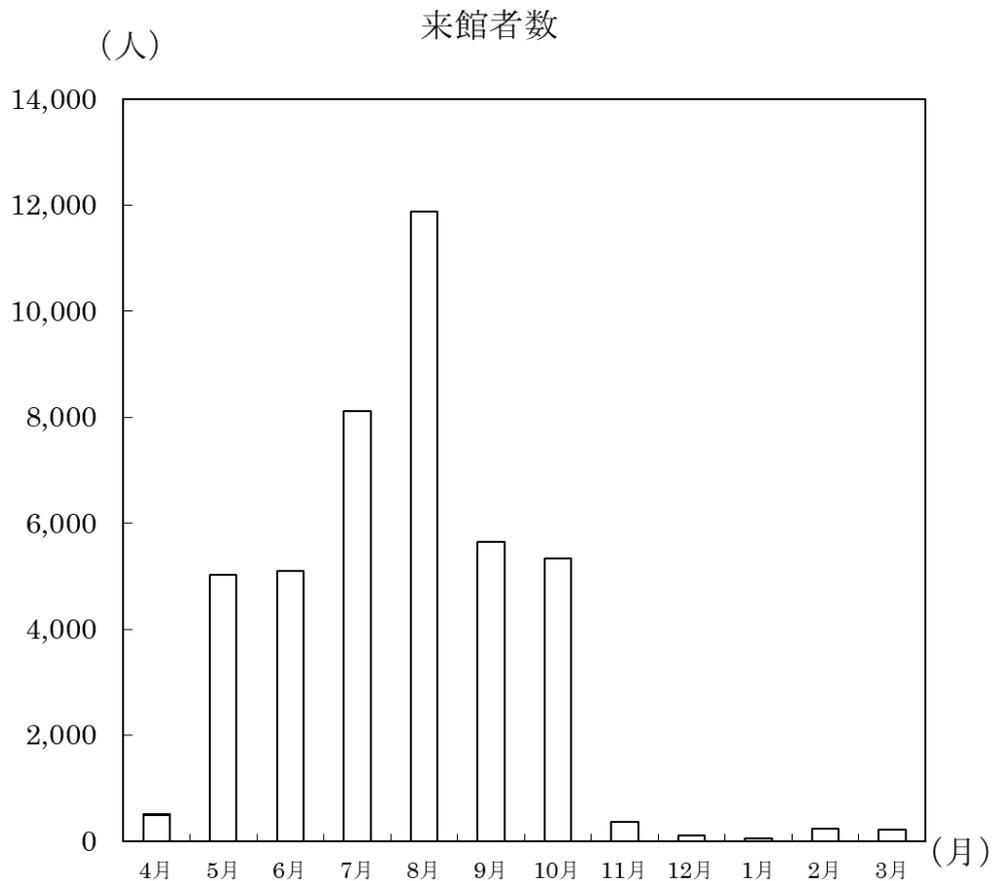
4) 新聞・雑誌等執筆

当館の学芸員が下記の通り記事の執筆を行った。

年月日	掲載紙, 見出し	執筆者
2023年		
5月1日	エコチル静岡版5月号, 今月の動物 ネンブツダイ	富山晋一
21日	静岡新聞, Yomoっと静岡 飼育員 Diary ウツボ	犬木義文
7月3日	エコチル静岡版7・8月号, 今月の動物 ヨダレカケ	太田勇太
8月20日	静岡新聞, Yomoっと静岡 飼育員 Diary マアジ	手塚覚夫
9月4日	エコチル静岡版9月号, 今月の動物 リュウグウノツカイ	青木聡史
11月6日	エコチル静岡版11月号, 今月の動物 アマクサクラゲ	犬木義文
19日	静岡新聞, Yomoっと静岡 飼育員 Diary コブダイ	長谷部阿由美
2024年		
1月9日	エコチル静岡版1月号, 今月の動物 タチウオ	山田一幸
3月4日	エコチル静岡版3月号, 今月の動物 アオブダイ	長谷部阿由美

3. 来館者数

海洋科学博物館では、2023 年度の入館料を無料とし、2 つある展示フロアのうち 1 階（水族館部分）のみの公開とした。一般対象の開館期間は 5 月～10 月、開館時間は 10 時～16 時（ただし 12 時～13 時を除く）とし、入館方法を事前予約制に変更し、1 時間ごとの入館者数を 100 人（1 日最大 500 人）までとした。一般の入館予約は海洋科学博物館のホームページからオンラインで行えるようにし、団体の入館は原則として学校団体のみとし、専用の申込用紙で受付を行った。



来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
海洋科学博物館	485	5,024	5,098	8,110	11,874	5,643	5,335	363	104	48	241	221	42,546

4. 主な来訪者

海洋科学博物館に下記の来訪があった。

年月日	来訪者，人数
2023年	
7月5日	ストックトン市，17名
7月22日	海のみらい静岡友の会，90名
9月28日	ウクライナ柔道チーム，22名
11月11日	静岡市環境大学 2023，28名
11月18日	東海大学埼玉県後援会，25名
12月5日	JAICA，5名
12月7日	碧南海浜水族館，2名
2024年	
2月26日	宇和島水産高校，2名
3月23日	東海大学連合後援会，45名

教育・研究活動記録

2023年4月1日～2024年3月31日

5. 教育普及活動

1) 出版物

i. 海のはくぶつかん

2023年度より年4回の発行として、当館の活動や生き物に関する読み物をホームページ上で発行している。

53巻3号（7月号）

- ☆ 今月のいいね！ イワシだけど、イワシじゃない!?—カタボシイワシー
- ☆ Q&A 疑問にお答えします：エサ パート2
- ☆ あれこれ 海洋水槽 初潜り！
- ☆ 四季折々 季節のクラゲ—ハナガサクラゲ—
- ☆ コラム 駿河湾で見られる南の海の魚たち

53巻4号（10月号）

- ☆ 今月のいいね！ 身近な高級魚イボダイ
- ☆ トピック すくすく育てカワバタモロコ
- ☆ あれこれ 海を漂い流れ着く！漂流物 ビーチコーミング

54巻1号（1月号）

- ☆ 今月のいいね！ 釜ごとご飯を借りるほどおいしい!?—クログチ—
- ☆ Q&A 疑問にお答えします：エサ パート3
- ☆ あれこれ 辰年にクロウミウマ育成中！
- ☆ コラム 魚を集める—釣り—

2) 教育・普及行事

i. サマースクール

i-1. 第53回サマースクール 小学校5・6年生コース

実施日：2023年8月7日（月）・8日（火）

参加者：8月7日（月）26名，8月8日（火）28名

参加費：1,000円（傷害・賠償保険，テキスト代含む）

担当者：犬木義文，太田勇太，山田一幸

（学芸員課程履修の学生が補助として指導にあたった）

「もっと魚を知ろう」をテーマに，魚とそれらを取り巻く環境について，知識と理解を深めることを目的に実施した．昨年度までは1コース2日間の日程で実施していたが，今年度より1コース1日として2回実施した．釣りによる生物採集を予定していたが，両日とも天候不良のためミニ水族館づくりに変更した．

日程

時間	プログラム
9:00	受付開始
9:30	開校式
10:00	ミニ水族館をつくろう * 博物館内に水槽を設置し8月13日まで展示
12:30	昼食
13:30	さかな学 * 講義と解剖
14:50	博物館のバックヤードツアー
15:40	まとめ
16:00	閉校式
16:30	解散



ii. 特別来館

主として学校団体を対象に下記の特別来館を受け入れているが、今年度は以下の来館があった。

ii-1. 体験学習プログラム

主に小・中学生の理科，生活科，課外授業において，博物館を有効利用していただくためのオリジナルプログラムである。

プログラム	幼稚園		小学校		中学校		高校		大学		一般		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
たいけんコース														
ウミホテル					1	79							1	79
ミズウオの解剖			2	73							3	87	5	160
ビーチコーミング			2	73							3	87	5	160
ガイドツアーコース														
裏側探検			2	72	2	83					2	60	6	215
夜の水族館	3	87	1	56									4	143
その他	1	37											1	37
レクチャーコース														
質問会			1	55									1	55
小 計														
たいけんコース			4	146	1	79					6	174	11	399
ガイドツアーコース	4	124	3	128	2	83					2	60	11	395
レクチャーコース			1	55									1	55
合 計	4	124	8	329	3	162					8	234	23	849
(前年度比)														28%

ii-2. その他の特別来館

プログラム	幼稚園		小学校		中学校		高校		大学		一般		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
職場体験							2	4					2	4
案内・説明							1	109	2	170	3	163	6	442
連携授業			1	58					1	110			2	168
合 計			1	58			2	4					10	614
(前年度比)														99%

全ての特別来館者の合計(1,463名)は、前年度比42%であった。

iii. 海のはくぶつかんシンポジウム「海の生物の営みを垣間見る」

実施日：2023年10月1日（日）

参加者：43名

海の生物の「営み」をテーマに、当館の学芸員と海洋学部の教員がそれぞれ研究対象としている生物について講演した。シンポジウム終了後には、バックヤードツアーを参加者に対して実施した。



時間	プログラム
13:00	開会の辞
13:05	館長挨拶
13:10	講演 1. 診てみる？海洋科学博物館でみられた魚の病気と寄生虫 青木聡史（海洋科学博物館・学芸員）
13:35	講演 2. 駿河湾の底生生物 田中克彦（海洋学部海洋生物学科・教授）
14:00	休憩
14:10	講演 3. 海岸歩行～植物を視る～ 太田勇太（海洋科学博物館・学芸員）
14:35	講演 4. 駿河湾のクジラたち 大泉宏（海洋学部海洋生物学科・教授）
15:00	館長挨拶 閉会の辞（司会）
15:05	バックヤードツアー
15:45	館内自由見学
16:45	閉館

iv. ワークショップ「三保だってアカウミガメの産卵地」

実施日：2023年12月3日（日）

対象：東海大学静岡キャンパスの在学生

参加者：13名

当館では、海洋学部と静岡市における包括連携協定の一環として、2005年度からアカウミガメの卵保護活動に取り組んできた。この経験と実績に基づいて、静岡キャンパス（海洋学部・人文学部）の在学生を対象にアカウミガメと地域の自然に関する環境教育プログラムを開発・実施し、本学の学生教育に貢献することを目的とした。

時間	プログラム
9:30	受付開始
10:00	講座開始
10:05	アカウミガメってどんなカメ？ *ウミガメ類の分類、形態、生態などの概要を説明.
10:25	静岡市におけるアカウミガメの産卵 *近年の産卵状況と卵保護活動およびそのメリットとリスクを説明.
10:45	その卵、あなたなら保護する？ *先の講義内容を踏まえ、参加者と共に近隣の真崎海岸を散策し、産卵地としての適性を評価.
11:10	まとめ
11:20	講座終了
11:25	博物館のバックヤードツアー（希望者のみ）
12:00	解散



v. 地域連携

海のみらい静岡友の会（静岡商工会議所）に協力し、下記のイベントを実施した。いずれも海や自然に親しみつつ海洋の知識や重要性を普及・啓発することを目的とした。

v-1. 清水港・港湾海洋体験

実施日：2023年7月22日（土）

参加者：40名（14組）

深海魚ミズウオに関するレクチャーを行い、本種が海中のゴミを餌と間違えて捕食していることを解説した。また、学芸員の案内で、海洋科学博物館のバックヤードを見学した。

v-2. 清水港・海洋体験ツアー

実施日：2023年7月22日（土）

参加者：40名（小人20名，大人20名）

長野県佐久市と静岡市の交流事業への協力として実施した。海ゴミによる環境汚染をテーマに、プログラムの前半では三保海岸においてビーチコーミングを実施し、漂着した自然物に紛れて多くの人工物（ゴミ）があることを観察した。その後、博物館にて近隣海岸に打ち上がった深海魚ミズウオの解剖を行い、ゴミを誤食している実態を解説した。



v-3. 川と海を繋ぐ生き物たち・川で遊び海を考える・

実施日：2023年9月2日（土）

会場：黒川キャンプ場

参加者：20名（小人8名，中学生1名，大人11名）

川の生き物を知るだけでなく、川を通じて海・山との繋がりや人と環境の繋がりを学ぶ体験を実施した。参加者は講義，工作，実習を行い，採集した生き物から自然の状態，自然の豊かさを学んだ。

3) 学校連携事業

i. コミュニティスクール（文部科学省学校運営協議会制度）への協力

担当者：手塚覚夫

静岡市立清水三保第一小学校の学校支援部会委員として，コミュニティスクールの運営を支援した。静岡市立清水第五中学校学区のコミュニティスクールは三保地区全体をひとつの学校と考え，学校・地域・家庭の三者で協働しながら，子供たちを育てる活動に取り組んでいる。三保地区にある教育施設として，出前授業や質問対応等を実施し，その活動を支援した。

4) 講師派遣

当館の学芸員が，下記の講義・講演を行った。

富山晋一：水族館で働く（東海大学海洋学部海洋生物学科，新入生研修会，2023.4.8）；博物館で学ぼう（東海大学海洋学部海洋生物学科，入門ゼミナールB，2023.9.29，2023.10.6）

長谷部阿由美，富山晋一，青木聡史：東海大学海洋学部博物館実習2，Aコース（2023.6.10，11，17，18，24，25）；東海大学海洋学部博物館実習2，Cコース（2023.10.14，15，21，22，28，29）

太田勇太：魚類の見分け方（静岡市環境局環境共生課，第3回市民生きもの調査員養成講座，

2023.7.15)

手塚覚夫：深海魚ミズウオについて・ミズウオの解剖とビーチコーミング（静岡商工会議所，海のみらい静岡友の会，2023.7.22）；警鐘を鳴らす深海魚ミズウオとビーチウォッチング（静岡市環境局ゴミ減量推進課，静岡市環境大学 2023，2024.3.17）

山田一幸，犬木義文，太田勇太：東海大学海洋学部博物館実習 2，B コース（2023.8.4～9）

太田勇太，富山晋一：川と海を繋ぐ生き物たち（静岡商工会議所，海のみらい友の会，2023.9.2）

山田一幸：ラブカのひみつ（ふくしま海洋科学館，企画展・特別講演会「深海調査のひみつ大公開」，2023.10.28）；ラブカを追って～駿河湾の魚とラブカ～（学校法人鈴木学園 中央動物総合専門学校，2024.1.9）；海と海のいきもののお話し～駿河湾とそこにすむ生きもの～（静岡市西部生涯学習センター，2024.3.17）

5) 委員の委嘱

当館の学芸員が，下記の委員を委嘱された。

野口文隆：教育課程編成委員会委員（学校法人爽青会専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー）

手塚覚夫：学校運営協議会学習支援部会委員（静岡市立清水三保第一小学校）；静岡市環境教育推進会議委員（静岡市環境局環境創造課）；静岡県博物館協会事業推進グループメンバー（静岡県博物館協会）

太田勇太：麻機遊水地保全活用推進協議会専門委員（麻機遊水地保全活用推進協議会）

6. 学芸員課程博物館実習指導

1) 東海大学海洋学部学芸員課程

博物館実習 2 (1 単位) を履修する 45 名の学生を受け入れた。A・B・C の 3 コースを設け、A と C は解説板の作成や標本の作製といった展示や資料収集に関する実習、B は小学生を対象としたイベント「サマースクール」の運営を通じた教育に関する業務を実践する指導内容とした。

指導教員：渡辺友美

非常勤講師：山田一幸，長谷部阿由美，富山晋一，青木聡史

指導学芸員：犬木義文，太田勇太

各コースの概要

コース名	担当学芸員	人数	日程と内容
A	長谷部・富山・青木	12	日程 6月 10・11・17・18・24・25 日 内容 ・常設展示物に関する解説板の作成 (1 種) ・オリジナル展示の制作と館内設置 (1 種) ・上記の解説板とオリジナル展示に対する来館者の反応の調査 ・魚類標本の作製 ・実習のまとめと振り返り
B	山田・犬木・太田	19	日程 8月 4～9 日 内容 ・会場設営 ・サマースクールの内容と段取りの確認 ・参加者に対する指導の予行演習 ・サマースクールの運営 ・実習のまとめと振り返り
C	長谷部・富山・青木	14	日程 10月 14・15・21・22・28・29 日 内容 ・常設展示物に関する解説板の作成 (3 種) ・上記の解説板に対する来館者の反応の調査 ・魚類標本の作製 ・実習のまとめと振り返り

7. 展 示 活 動

1) 展示協力

i. 当館が受けた協力

生物交換	生物受贈
<ul style="list-style-type: none">・越前松島水族館（回数 2）・島根県立しまね海洋館 アクアス（1）・下田海中水族館（2）・浜名湖体験学習施設ウオット（1）	<ul style="list-style-type: none">・一丸（回数 1）・川雅丸（2）・神栄丸（4）・太郎丸（1）・山大丸（2）・由比倉沢定置網（12）

ii. 当館が行った協力

生物交換	資料貸出
<ul style="list-style-type: none">・越前松島水族館（回数 2）・島根県立しまね海洋館 アクアス（1）・下田海中水族館（2）・浜名湖体験学習施設ウオット（2）	<ul style="list-style-type: none">・マリホ水族館（回数 1）

2) 飼育水族

2023年4月1日～2024年3月31日（種類数—個体数）

分 類		Apr.	May	June	July
無脊椎動物	Invertebrate				
刺胞動物	Cnidaria	40-342	39-287	39-277	40-247
有櫛動物	Ctenophora	1-10	1-10	1-10	1-10
軟体動物	Mollusca	12-160	11-184	11-184	11-185
環形動物	Annelida	1-1	2-4	1-1	1-1
節足動物	Arthropoda	30-161	28-152	31-155	28-148
棘皮動物	Echinodermata	19-240	19-240	19-240	19-245
無脊椎動物 合計	Total of invertebrate	103-914	100-877	102-867	100-836
脊椎動物	Vertebrate				
ヌタウナギ綱	Myxini				
ヌタウナギ目	Myxinidae	3-16	3-15	3-15	3-15
軟骨魚綱	Chondrichthyes				
ネコザメ目	Heterodontiformes	1-1	1-1	1-1	1-1
テンジクザメ目	Orectolobiformes	1-2	1-2	1-2	1-2
メジロザメ目	Carcharhiniformes	3-11	3-11	4-12	4-12
ネズミザメ目	Lamniformes	1-2	1-2	1-2	1-2
カスザメ目	Squatiformes	2-5	2-12	2-11	2-11
エイ目	Rajiformes	3-15	4-17	4-17	4-16
硬骨魚綱	Osteichthyes				
ウナギ目	Anguilliformes	23-107	23-107	23-106	23-106
ニシン目	Clupeiformes	2-475	2-459	2-464	2-454
ネズミギス目	Gonorynchiformes	0-0	0-0	0-0	0-0
ナマズ目	Siluriformes	1-2	1-1	1-1	1-1
ヒメ目	Aulopiformes	3-18	3-18	3-18	3-18
アンコウ目	Lophiiformes	0-0	0-0	0-0	1-1
ボラ目	Mugiliformes	2-8	2-8	1-7	1-7
トウゴロウイワシ目	Atheriniformes	0-0	0-0	0-0	0-0
キンメダイ目	Beryciformes	12-165	12-159	12-157	12-156
トゲウオ目	Gasterosteiformes	3-83	3-80	3-88	3-88
スズキ目	Perciformes	263-2162	262-2191	261-2161	262-2199
カレイ目	Pleuronectiformes	3-5	3-5	3-5	2-4
フグ目	Tetraodontiformes	22-43	22-43	22-42	22-41
魚類合計	Total of fishes	348-3120	348-3131	347-3109	348-3134

Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan.	Feb.	Mar.
39-257	40-268	40-242	40-241	40-236	40-262	40-416	41-364
1-10	1-14	1-14	1-18	1-18	1-18	0-0	0-0
11-185	11-185	12-165	12-171	12-161	12-161	12-165	12-165
1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1
29-145	28-143	29-137	29-120	28-104	28-147	28-144	26-135
19-245	19-253	19-253	19-253	19-253	19-253	19-253	19-253
100-843	100-864	102-812	102-804	101-773	101-842	100-979	99-918
3-15	3-15	3-14	3-14	3-14	0-0	0-0	0-0
1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-4
1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2
4-12	4-15	4-15	4-15	4-15	4-15	4-15	4-15
1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2
2-8	1-7	1-7	1-7	1-7	1-7	1-7	1-7
4-16	3-12	3-12	4-11	4-11	3-11	4-14	4-14
20-85	20-84	20-83	20-83	20-83	20-93	20-90	20-89
2-444	3-430	3-419	3-403	3-403	3-393	3-383	3-370
1-6	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4
1-1	1-1	1-1	1-1	0-0	1-1	1-1	1-1
3-18	3-18	3-18	4-20	3-13	2-13	2-13	2-15
1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1
1-7	1-7	1-7	1-7	1-7	1-7	1-7	1-7
0-0	0-0	0-0	0-0	1-22	1-20	1-21	1-21
12-155	12-158	12-158	12-156	11-152	10-152	10-165	10-164
3-88	3-86	3-85	3-85	3-64	3-64	3-49	3-49
256-2190	261-2315	260-2295	259-2342	262-2412	252-2357	254-2489	254-2451
2-4	2-4	3-5	3-5	3-5	3-5	4-6	4-6
23-46	23-45	23-44	24-43	24-44	22-39	21-36	20-35
341-3101	345-3207	345-3173	346-3203	369-3259	350-3187	354-3306	353-3257

8. 研究活動

1) 研究業績

i. 研究論文等

東海大学海洋学部博物館（監）（2023）るるぶ マンガとクイズで楽しく学ぶ！海のふしぎ. JTB パブリッシング，東京，240p.（業績 No. 262）

ii. 研究発表（当館外の発表者には*を付した）

生田春幸*・森 徹*・山田一幸. タチウオの初展示について. 公益社団法人日本動物園水族館協会 第 89 回近畿ブロック水族館飼育係研修会（於 滋賀県立琵琶湖博物館，2023.9.26～27）

太田勇太. 静岡市におけるネナシカズラ属 2 種の生息状況調査. 公益社団法人日本動物園水族館協会 第 68 回水族館技術者研究会（於 ロイヤルパインズホテル浦和，2023.11.16）

山口和晃*・川口茜*・宇野好宣*・宇野好宣*・門田満隆*・西村理*・松本瑠偉*・喜屋武樹*・加登岡大樹*・都築信隆*・山内信弥*・山田一幸・兵藤晋*・佐藤圭一*・工樂樹洋*. Squalomix コンソーシアムによるサメ・エイ類の分子生物学研究：脊椎動物の進化と多様性の成立ちを理解するために. 第 46 回日本分子生物学会年会（於 神戸ポートアイランド，2023.12.6～8）

iii. 学会・研修・会議等への出席

村山司. 公益社団法人日本動物園水族館協会 令和 5 年度第 1 回中部ブロック園館長会議（オンライン出席，高岡古城公園動物園より配信，2023.4.19）

鈴木宏易. 公益社団法人日本動物園水族館協会 令和 5 年度通常総会（於 ANA クラウンプラザ宇部，2023.5.23～24）

手塚覚夫. 静岡県博物館協会事業推進グループ 令和 5 年度第 1 回会合（於 静岡県立美術館，2023.7.5）

犬木義文. 公益社団法人日本動物園水族館協会 将来戦略策定プレワークショップ（於 上野動物園，2023.9.11）

山田一幸. 公益社団法人日本動物園水族館協会 第 89 回近畿ブロック水族館飼育係研修会（於 滋賀県立琵琶湖博物館，2023.9.26～27）

手塚覚夫. 静岡県博物館協会事業推進グループ 令和 5 年度第 2 回会合（於 静岡県立美術館，2023.11.7）

太田勇太. 公益社団法人日本動物園水族館協会 第 68 回水族館技術者研究会（於 ロイヤルパインズホテル浦和，2023.11.16～17）

村山司. 公益社団法人日本動物園水族館協会 令和 5 年度第 2 回中部ブロック園館長会議（オンライン出席，富山市ファミリーパークより配信，2023.11.21～22）

富山晋一. 東京動物園協会 教育普及ふれあいシンポジウム 水生生物を介した学びを考える（オン

ライン出席，葛西臨海水族園より配信，2023.11.22)

2) 研究指導

東海大学海洋学部における卒業研究を受け入れた。研究テーマ，指導教員は下記の通りである。

マツカサウオ *Monocentris japonica* 仔魚の初期餌料と飼育環境の検討（卒研 No.297）：指導教員，秋山信彦教授。研究サポート，犬木義文・太田勇太

静岡県内浦湾におけるキクマメスナギンチャクの雌雄と産卵時期の検討（卒研 No.296）：指導教員，中村雅子准教授。研究サポート，青木聡史

3) ラブカ研究プロジェクト

東海大学海洋科学博物館とアクアマリンふくしま（福島県）が 2016 年に発足させた共同研究プロジェクトで，深海性サメ類ラブカの生態及び飼育に関する知見の収集を目的としている。2023 年度は，漁業者の協力を得て刺網により生体を採集し，飼育実験を行った。死亡した個体は標本とし，本学海洋学部の野原准教授（本学海洋学部）により遺伝情報収集のため組織切片のサンプリングが実施された。一方，卵や胎仔の保育については，妊娠個体が採集されず着手できなかった。今後もラブカの長期飼育・展示を目指し，継続的に各種活動を行う。

9. その他の活動

アカウミガメの保存対策事業

東海大学と静岡市が締結した交流事業に関する協定に基づき、当館と静岡市は平成 17 年度より種の保存対策事業（平成 26 年からはアカウミガメの保存対策事業）に取り組んできた。本事業では静岡市沿岸におけるアカウミガメの産出卵を対象に、その卵を保護する必要があると判断された場合に限り海洋科学博物館に移設・管理し、孵化後に子ガメの放流を行っている。しかし、2023年度は対象区域においてアカウミガメの上陸は確認されなかった。

国立遺伝学研究所からの委託事業

当館では、国立遺伝学研究所小型魚類遺伝研究室の酒井則良氏からの依頼で、2021年度からサバ科魚類グルクマの親魚および仔稚魚の飼育業務を受託している。酒井氏は、国立研究開発法人科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）産学共同（本格型）に採択された「近縁種免疫不全成魚へのクロマグロ生殖幹細胞移植による早期配偶子産生」における研究開発「免疫不全グルクマによるクロマグロの早期配偶子産生技術の確立」に取り組んでいる。本研究は、グルクマを宿主にクロマグロ生殖幹細胞を移植して配偶子を産生することを目的としており、当館で飼育する個体は遺伝子操作をする前の供試魚である。

東海大学海洋学部博物館年報

Annual Report of the Museum: School of Marine Science
and Technology, Tokai University

No.52, 2024

2024年12月31日

編集発行 東海大学海洋学部博物館

静岡県静岡市清水区三保 2389

電話 054 (334) 2385 (代)
